

令和7年度 第1回ボランティア市民活動推進協議会 会議録

1. 開催日時 令和7年7月10日（木） 19時から20時50分まで
2. 場 所 四国中央市消防防災センター 3階 301会議室
3. 出席者 （委 員）前田 眞委員、横内 薫委員、佐藤 温美委員、北岡 翔委員
田野 奈々重委員、内川 眞千子委員、高橋 将太委員、青木 千穂委員
（事務局）地域振興課長 福田 幸児
守屋 貴子、宮本 純花、山本 大将
ボランティア市民活動センター所長 越智 康
越智 敦子

四国中央市社会福祉協議会 総務企画課長 今村 圭介
同 総務企画課主査 谷澤 潤哉
4. 傍 聴 者 なし
5. 会議内容
 1. 開会
 2. 委員紹介
 3. 会長・副会長選任
 4. 事務局等紹介
 5. 議事
 - （1）ボランティア市民活動センター令和6年度事業報告
 - （2）ボランティア市民活動センター令和7年度事業計画
 - （3）災害時のボランティア活動等について
 - ・ 令和6年度能登半島地震 四国中央市社会福祉協議会からの職員派遣
 - ・ 令和7年度今治林野火災 今治市社会福祉協議会からの報告
 6. 閉会

6. 会 議 録

発言者	発言内容
所長	1. 開会 只今よりボランティア市民活動推進協議会を開会する。
所長	2. 委員紹介 (紹介後、委員より自己紹介)
所長	3. 会長・副会長選任 会長について、委員の皆様の互選にて決定したいが意見はないか。 (意見が出なかったため、事務局より前田委員を提案) ～異議なし～ 副会長について、委員の皆様の互選にて決定したいが意見はないか。 (意見が出なかったため、事務局より横内委員を提案) ～異議なし～ 会長 副会長 所長 就任あいさつ
所長	4. 事務局等紹介 (事務局自己紹介、四国中央市社会福祉協議会 2名紹介)
会長 事務局 会長 委員 事務局	5. 議事 (1) ボランティア市民活動センター令和6年度事業報告について 説明を事務局より願います。 (資料1に基づき説明) 事務局からの説明について質問はあるか。 ボランティア市民活動推進協議会が目指す姿、指針を教えてください。 お渡ししている資料の「四国中央市ボランティア市民活動推進条例」にある、ボランティア推進協議会の設置等に関する記載のとおり、市民がまちづくりの一員として積極的にボランティア市民活動に参加し、市民と市の協働を中心とした市民全体で支え合う活力ある豊かなまちづくりを推進するために協議会を設置している。

委員	1月26日に開催したボランティア市民活動交流会での前田会長による講演「これからのボランティア活動について」では、どんな話をされたのか。
会長	デジタルボランティアの提案をさせていただいた。八幡浜市の「トロール会議」では、アナログ情報のデジタル化のボランティアを通じて、高校生が卒業して県外の大学へ進学した後も関われる取組みをされており、参考にその取組みについて紹介した。
委員	市内高校生ボランティアグループ「しこちゅ〜ボラ7」について、高校による人数の偏りはあるか。
事務局	センターに近いこともあり、三島高校生が多い。その次に川之江高校生が多く、土居高校生は数人である。土居高校自体、生徒数が少なくなっているので懸念している。川之江高校や土居高校の生徒が参加しやすいよう、昨年度からリモート会議を取り入れている。
委員	高校生が、どういうボランティア活動に参加しているか、実施状況を教えてほしい。
事務局	昨年度は、市役所や市民活動団体から71件の依頼があった。延べ人数としては、高校生363名がボランティアに参加している。
会長	企業ボランティアについて、具体的にはどんなボランティアをしてるのか。特徴的なことがあれば紹介してほしい。
事務局	昨年度行った特徴的な取組みとしては、企業が行うSDGs活動について、学校で紹介してもらった。今年度は、企業ボランティア実態把握のため、ボラ7による企業ボランティアへの取材を計画している。
会長	会社周りの掃除や、防災に関する物品、フードドライブ食品の提供など、いろいろなボランティアがある。また、イベントにおいて、社員の方にボランティアのお願いができたりする。依頼しやすいルートができると、協賛企業が人やお金、物品を出してくれ繋がりがやすくなる。最近は子どもの貧困問題もあり、こども食堂や地域食堂に取り組んでくれることもあるし、防災、災害時に、いろんなかたちで関わってもらえる。受援者側から、これをやってほしい、とニーズを上げていくことが大事。良い情報共有の場がつけれるといい。 (2) ボランティア市民活動センター令和7年度事業計画について 説明を事務局より願います。 (資料2に基づき説明)
会長	事務局からの説明について質問はあるか。

委員	災害ボランティアは、どのくらい登録されているのか。
事務局	災害に特化した登録については個人5名、団体3つ、企業8社となっている。 実施可能なボランティアとして災害ボランティアも含まれているのが、個人28名、団体9つ、企業13社で、計66件登録されている。
委員	災害ボランティアのネットワークを広げないといけないが、そのためにどのような発信をしているか。
事務局	企業に何う際にご案内しているが、広く発信する工夫を検討していかなければならない。
委員	今後は、Youtubeなどいろいろな媒体でボラ7メンバーに協力してもらい発信していくと、いろいろな世代が関心を持ってくれると思う。
会長	2018年の豪雨災害や、今年の今治森林火災でもそうだったが、支援者として土地勘のない人がたくさん入ってくる可能性がある。愛媛県では、そういった支援者に対して、地元のニーズがどこにあるのか、場所も含めて情報を共有する会議を行っている。2018年の豪雨災害の際に初めて、南予を中心に支援者と地域のニーズをマッチングさせる会議を取り入れた。ネットワークづくりも、単に知り合いになれば終わりではなく、災害を受けたときの相互の流れを話し合う会議を行うとよい。
委員	中学校で生徒会の子と話す機会があり、廃品回収のやり方や発信方法がわからない、と聞いた。敬老会や公民館など、いろいろな繋がりがあったため協力でき、相互の関係性ができた。行き来のできる関係にできればいい。
会長	コミュニティスクールということで、学校と地域が一緒になり学校運営を行うなど、双方向の関係づくりが進んでいる。大人と子ども、各々のやりたいことに関わり応援し合う、双方向の関係づくりができるとよい。学生企画のボランティア活動をどう生み出していくか話し合いの場を持ちながら、学生たちのやりたいことを大人が応援する仕組みを発展させると、ボランティアに対する達成感も広がるのではないかと。先生や親以外の大人と話すことはとても大事なことで、機会を増やすとよい。
委員	今年、ボラ7は7代目だが、初期メンバーは大学に行ったり成人され、その後ボランティア活動にどのように関わっているのか。
事務局	大学に入ってから、ボランティアグループに所属し活動をしているメンバーはいる。市役所や都庁などに勤めている卒業メンバーもあり、いろいろな話をしてくれる。また、3代目だった卒業メンバーが、今年度よりセンターに職員として来てくれ、ボランティア市民活動のために頑張ってくれている。
会長	いい循環が生まれている。そういう人たちの思いを、ボラ7通信に掲載してもいいのではないかと。

委員	私は、6月に団体を立ち上げこれから活動する。災害ボランティアをしている企業の情報をどのように得たらいいかわからない。情報一覧があれば教えてもらいたい。
事務局	災害が起きたときに重機を出すことができる、というような話を伺っている。平時において活動している企業はなかなかいない。
会長	八幡浜市の「トロール会議」で、日用品小売店の方が、災害時にお客さんが個別に来て物資は出せないが、行政など公的な機関から依頼が来たときは出せる、という話をしていた。きちんとしたルートで要請しなければならないことがわかった。八幡浜の道の駅においても、土地勘のない人をどのように避難誘導させるか、という問題が話題に上がった。今、避難時に効果的なサインや動画を作ろうとしており、そのような話し合いの場があることは、安心感にも繋がると感じる。
委員	防災やボランティアについての情報を、アプリなどで検索できるシステムがあれば助かる。
会長	ハザードマップや津波の浸水情報がデジタル化されスマホで見れたり、システムは充実してきている。愛媛大学でも、防災情報研究センターにおいて、地形と火災場所、風向きを設定すると燃え広がるスピードを視覚化できるソフトを作っていて、どこの市町でも確認できると思う。
事務局	防災に関する取り組みの紹介として、市の公式LINEもメニューの拡充を進めており、基本メニュー画面に「安心・安全」の欄がある。タグを開くと、災害情報や現在地から一番近い避難所、市内放送の内容などが確認できる。 また、デジタルボランティアについては、離れたところからさまざまな情報を一元化でき、正確な情報発信に繋がると考えている。
委員	ボランティアで0歳の赤ちゃんとその家庭を対象とした「ベビまちゅり」というイベントを開催した。その際、ボランティアの情報については市公式LINEで流せないことになった。楽しみながら協力し合える体制を、民間と行政が一緒になって作っていきけるよう、歩み寄れる場があればいいと考えている。
事務局	ボランティア市民活動センターでは、ボラ7通信やボラ7のインスタグラムで情報発信をしている。ボランティア登録している団体や企業からの情報をメンバーが取材し発信していきたい。 (3) 災害時のボランティア活動等について ○令和6年度能登半島地震 四国中央市社会福祉協議会からの職員派遣 ○令和7年今治林野火災 今治市社会福祉協議会からの報告 (説明) 四国中央市社会福祉協議会 今村、谷澤
委員	四国中央市の課題として、ボランティア市民活動センターと企業の繋がりが弱いと感じる。ボラ7も、プロモーションビデオを作成するとか、より興味を引く取組をすると企業の人たちも振り向いてくれるのでは、と感じたので、うまく利用してくれた

	らいい。
委員	社協の方が能登半島に行かれて1年半経つが、いろんな学びから変わったことや、準備したことがあれば聞かせていただきたい。
社協	ネットワークづくりが進んでいなかったのもので、昨年連携推進会議を開催し、お互いが意見交換、情報共有できる関係づくりに努めた。
会長	勉強会を、共に行いながらやっていくと、自分ごと化しやすくなるかもしれない。映像などを利用し見える化して発信する仕組みができるとよい。ここで出た皆さんの意見も含め、今年度さまざまな取組を活動の中に取り入れながらやっていけるとよい。委員の皆様も関心を持って見ていただき、協力していただけたらと思う。本日の議事はこれで終了したい。 皆様、ご協力ありがとうございました。
司会	6. 閉会 令和7年度第1回ボランティア市民活動推進協議会を閉会いたします。本日は、長時間にわたりありがとうございました。